

## 知事との県民対話集会（佐久穂町）概要

- ・開催日時 令和5年2月18日（土） 午後2時から午後3時30分まで
- ・会場 佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」 中会議室
- ・参加者 県民50名、佐々木佐久穂町長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長 他
- ・テーマ 佐久穂の未来 ～川と水との暮らしを考える～

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

・大石川で信州サーモンや信州大王イワナなどの淡水魚を養殖し、加工販売している。信州サーモンは人気店のメニューとして使われ、また、佐久穂町のふるさと納税の返礼品にもなっている。地元密着の魚屋を目指しており、それが、地産地消、雇用促進のほか人を呼び込むことにもつながってくると思う。淡水魚を食べる食文化を進化させたい。

#### 【知事】

・信州サーモンは、世界に発信できるブランドになっている。淡水魚も美味しいということをしっかり発信していきたい。飲食・宿泊業でも観光客に対し地元のものを提供してもらうとともに、地産地消を推進していく。

#### 【参加者】

・千曲川の河川環境について、堰堤上の河川の平坦化や土砂の堆積、堰堤下の河床低下により、魚道の機能低下の状況がある。釣りがしたくてもできない人が増加している。釣りは地域の観光資源でもある。埼玉県では建設事務所と漁業関係者が連携し、浚渫工事の際に石かごをつくるなど、魚の住みやすい環境を整えている。我々も建設事務所や自治体と連携しながら取り組んでいきたい。また、県水産試験場には養殖品種だけでなく在来品種の安定供給を確保し、普及指導をお願いしたい。

#### 【小林佐久建設事務所長】

・河川環境の改善については、河道内の浚渫や樹木の伐採を災害復旧と併せて集中的に進めている。治水施設だけでは環境保全まではできないが、森林や農地を含めた流域全体の環境を整えていく中で、生態系や魚類への配慮をしていければと考えている。台風19号災害を受けて、治水安全度の向上を最優先で取り組んでいるが、河川整備の基本的な考え方は多自然川づくりである。佐久穂町でかわまちづくり計画が策定された。建設事務所でも計画に配慮し対応していきたい。

#### 【知事】

・治水安全度の向上だけでなく、生態系の保全、漁業の振興も念頭に置いて、漁業関係者とどのようなコミュニケーションや連携をとって河川の浚渫を進めればよいか考えたい。漁協の皆さんの意見をどのように聴いて、どのようにフィードバックすればよいか、浚渫する際に水産試験場や農政部の観点をどこまで共有しながらやっていくのか、システムとしてどういう形がよいか整理したい。

#### 【参加者】

・年々川魚の種類や数が減少し、釣り人も減っている。抜井川でルアーフィッシング教室も開催したが、台風19号災害で浅い川になってしまい再開できないでいる。昨年、通常は湖面の利用ができない余地ダムでSUP（スタンドアップパドルボード）体験会を社会実験として開催することができたが、来年度以降も湖面開放をお願いしたい。信州は、ドキドキやワクワク、感動を山、川、湖などの自然の中で体感できる素晴らしい地域である。県内外の方々に、より体感してもらえる方法などがまだまだ発掘できると思う。

#### 【知事】

・長野県をアウトドア県にしたいと考えており、釣りも重要な要素であると思う。  
・長野県の豊かな自然をもっと活かさないといけない。水面のアクティビティや釣りなどを楽しめる場所はたくさんあるが、規制がかかっていたりすることがある。行政は安全側、管理側で考えがちであり、住民からこうしたいなどの声を上げてもらいたい。その声を受けて、できるだけ前向きに考えるようにしたい。

**【参加者】**

・佐久穂町は水源や源流、千曲川やその支流があり、恵まれた環境である。川や水を守ることや森の必要性などを子どもたちに感じてほしいと思っている。子どもたちに川遊びなどを体験させたいと思う先生もいるが、そのような場所がなかなかない。学校では川は危険なところと教え、特に台風19号災害後は川が遠いものになっている。身近な川について、学校教育の中で、体験活動や防災学習、町の魅力発信の場として利活用が必要ではないかと考えている。大人自身も関心を寄せ、子どもたちに伝える必要がある。

**【知事】**

・今は、危ないものには触らせないという教育だが、身をもって体験することも重要。全国一律の学習指導要領どおりの教育では、豊かな自然があっても教育に活かせないと思う。信州やまほいくで保育分野は変えてきたので、今度は小中学校の教育を変えていきたい。  
・森林については、森林づくり県民税を使ってアクセスしやすくする。川ももっと親しめる空間をつくれるように取り組みたい。佐久穂町では道の駅に親水空間を整備するとのことなので、県も協力していきたい。

**【参加者】**

・子どもの大日向小学校への入学を機に移住した。夏休み中の学童の活動では、抜井川でライフジャケットを着用して泳いだり、魚の観察などをした。イエナプランが大切にしている「本物から学ぶ」ことができ、佐久穂町の立地のありがたさを感じる。  
・佐久穂町では小水力発電所の建設が進んでおり、子どもたちにとっても、地域資源を活かした再生可能エネルギーの生産や活用を身近に学べるきっかけになると期待している。子どもたちは、地域の川と水から多くのことが学べる。貴重な学びの資源がこれからも維持されることを望む。

**【知事】**

・長野県は都道府県で初めて気候非常事態宣言を行い、ゼロカーボン戦略に取り組んでいる。信州健康ゼロエネ住宅の普及も行っているところであり、佐久穂町の方々にも太陽光パネルの設置を検討してもらいたい。長野県は太陽光発電と水力発電のポテンシャルが高く、それらを活かしていければと思うので協力していただきたい。

**【参加者】**

・千曲川の堤防と河川敷を利用したサイクリングロードを整備できないか。免許返納をした高齢者の行動範囲が広がることにつながり、子どもたちは川に親しめると思う。

**【小林佐久建設事務所長】**

・千曲川下流の千曲市や長野市では堤防が連続しており、サイクリングロードが整備されている。佐久地域では、現在、河川堤防自体を整備している状況。県の施策としてもサイクリングコースの設定をすることとしており、佐久地域でもコース設定の検討をする中で、ご意見を参考にさせていただく。

**【知事】**

・堤防のサイクリングロード化については実態を把握したい。県内全体にサイクリングロードを広げたいと考えている。

**【参加者】**

・中部横断自動車道が佐久穂まで開通し、町に活気が出た。さらに野辺山から山梨県までの完成をお願いしたい。

**【知事】**

・地元から強く要請をいただいております、国土交通省へ要望している。足踏み状態だった山梨県側でも着実に進める方向になってきていると思う。

**【参加者】**

・この地域は花きや果樹の産地であるが、特産品として育てるためには手がかかり、儲からない農業になっている。県が特産品づくりを主導し、持続可能な農業にしていく観点で進めてほしい。

**【知事】**

・県全体では、例えば、ぶどう三姉妹などを東京に売り込んで高く買ってもらおうと取り組んでいる。佐久穂町のプルーンやブルーベリーもストーリーを付けてブランド価値を高める戦略と一緒に考えることがよいのではないか。

・肥飼料価格が高騰し、厳しい状況にあるが、世界的には農業は成長産業。稼げる農業にしていけないといけない。全体のアプローチとして、一つはブランド力を上げて高く売ること。もう一つは農地を集約し、経営規模を整え、スマート農業を取り入れて生産性を上げていかなければならない。

・一方で、地域の食を支えることも農業の大きな役割。外貨獲得とともに、地元産のものを地元で買う「しあわせバイ信州運動」にもしっかり取り組んでいく。